

## 第29回日本骨折治療学会印象記

北海道社会事業協会帯広病院 高 畑 智 嗣

2003年の骨折治療学会（第29回）は例年よりも1ヵ月遅く8月1～2日に神戸ポートアイランドで開かれた。会長は近畿大学の浜西千秋教授で、期日だけでなく内容も例年とはひと味違う学会を演出した。かなり早くに個性的な主題案を提示し、学会ホームページ上で意図を解説した。その際、短期少数例の臨床報告は応募を遠慮するよう明言し、その結果演題が少なくてもやむを得ないと見得を切った。

果たして応募演題は少なく、第28回が274題に対して236題であった。おかげで朝・昼休み・夕方は余裕があり、会場は3つに減り、4つの教育研修講演時は他会場に発表がなかった。いっぽう演題が少ない場合に心配される参加者数は、約1100人と例年よりも多かったそうである。

また本学会としては初めて一般演題もパソコン発表のみとなり、スライドが全廃された。様々な学会でマンネリ化が指摘されるなか、学会長のマネジメントが奏功した印象深い学会となった。

浜西教授は「整形外科医を取り巻く医業類似行為の世界」と題した会長講演で、3万人の柔道整復師、15万人の鍼灸師、10万人の指圧マッサージ師、およびカイロプラクティックなどに関して過去のいきさつ、現在何が起きているか、そして今後どうなりそうなのかを示した。

例えば整形外科医が毎年500人誕生するのに対して、柔道整復師は3年後には毎年5000人誕生すること。あるいは柔道整復師側は医師の指示を必要としない保険診療を、鍼灸師側は現在の柔道整復師と同等の権利獲得を目標に、政治活動や裁判闘争をしている事などが次々と示された。

教育研修講演1は熊本中央病院の阿部靖之先生による「下肢骨折における深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症」であった。日本人には稀とされていた深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症が、実は下肢骨折では確実に発生している事が分かり、近年注目されている。その一部は致死的であり、発生予防と早期発見の重要性が指摘された。

発生予防は入院時からの弾性ストッキング着用と間欠的空気圧迫装置の使用が勧められる。スクリーニングになかなか良い方法が無いがD-dimerが比較的有用。発生後の治療はヘパリンで、状態によっては下大静脈フィルターを留置してから下肢骨折を手術すること。

教育研修講演2はいしぐろ整形外科の石黒隆先生による「上肢の骨折に対する保存的治療」であった。橈骨遠位端骨折、舟状骨骨折、基節骨骨折、および上腕骨近位端骨折について、保存的治療で良好に治癒せしめた多数の症例を供覧し、最近の手術適応拡大傾向を批判した。上記骨折イコール手術と信じ込んでいる今時の整形外科医にインパクトを与えた。

以下、今回の一般演題の傾向を記してみた。「上腕骨近位部骨折」順行性に挿入する横止め式髓内釘（Polarus など）が注目されているが、横止め裸子の逸脱が頻発している（ロッキング機構が不十分なので）。

「大腿骨転子部骨折」骨折部の短縮を悪と見る傾向が出てきて、短縮防止のために骨折部を展開して正確に整復したり、人工骨やバイオベックスを充填する試みが発表されている。

「バイオベックス」椎体骨折、転子部骨折、脛骨高原骨折などの荷重部への使用が報告されたが、橈骨遠位端骨折への使用と同様に魔法のような効果は無いようである。

「Locking compression plate ( AO )」 多施設共同研究で肯定的結果が報告された．まず橈骨遠位端骨折の掌側支持プレートとして広まりそうである．

「クリティカルパスウェイ」 外傷，なかでも高齢者の大腿骨頸部骨折ではバリエーションが多く，発表者は皆その対策に苦労している．

「橈骨遠位端骨折」 Non-bridging type の創外固定と掌側支持プレートに興味が集まっている．新製品の発売も相次いでいる．

「医療費とコストパフォーマンス」 今回の主題の1つだった為か，一般演題でも医療費に言及した発表が散見された．これが今回のみの現象か今後の流れになるかは不明．発表する治療法が低コストの場合に医療費に言及する傾向があり，高コストの治療法の発表者は医療費については沈黙している．

例えば13万円の Moore 型人工骨頭に対して bipolar 型人工骨頭は94万円，あるいは5本で6万円の Ender 釘に対してチタン製 CHS は22

万円である．それぞれ前者を愛用する私は，骨折治療のインプラント費を10年間で1億3千万円節約したと主題セッションで発表したところ，結構受けた．

さて皆さん良く御存知の青柳孝一先生が今回，骨折治療学会の名誉会員に迎えられました．若い先生は知らないと思いますが，青柳先生は1987年に本学会（当時は日本骨折研究会）の会長となり，札幌で総会を開いたのです．名誉会員になったため，長く努めた評議員を退かれました．北海道の同好の仲間として青柳先生の名誉会員を祝いたいと思います．

本学会への北海道からの演題および参加者数は，今回も多いとは言えず寂しく感じました．全国の熱心な医師の様々な発表や各社の機械展示の中に，多くのヒントや刺激や反面教師が含まれています．次回の本学会への多数の参加を期待します．次回（第30回）は帝京大学の松下隆教授が会長となって2004年7月2～3日に東京国際フォーラムで開かれます．